

「選手」「サポーター」「フロント」三者相互のリスペクトが取り戻す満員のスタジアム ー理想のＪリーグクラブ像ー

トップスポーツマネジメントコース
5007A316-0 相馬直樹

研究指導教員： 平田竹男教授

本研究は、元Ｊリーガーであった筆者が感じるＪリーグの今後への危機感から始まった。Ｊリーグが一大ブームだった1994年にプロの世界に入り、満員の中でプレーする素晴らしさを経験してきた者として、将来の後輩たちにその素晴らしい体験をさせてあげなければという思いが、この稿の執筆につながったのである。

筆者は、Ｊリーグ（Ｊクラブ）、そしてサッカーが文化として根付いていく必要性を痛感しており、今すぐにも満員のスタジアムによる熱狂を取り戻さなければならないと考え、本研究では「どのようにしてＪリーグ開幕時のような満員のスタジアムを取り戻すか」ということをテーマにして進めてきた。

そこで本研究では、①満員のスタジアムを作れている、あるいは満員に近づいているＪクラブを探し出し、②そのクラブを時系列に沿って分析した上で、③そのクラブのとった方策の検証と、そこから得られた今後のＪクラブ経営のヒントを探ったのである。

①においては、Ｊリーグ開幕時の熱狂を知っているクラブが、どのようにＶ字曲線を描いて満員傾向を高めているのかを検証するための条件を設定した。Ｊリーグ創設時かつ、07シーズンもＪ1に在籍し、関東（首都圏）以外の中規模以下のホームタウンに小規模スタジアムを持ち、さらに近年において満員度の上昇が認められるクラブを第3章で探し出したのであるが、そのすべての条件に該当したのは清水エスパルス（以下、エスパルス）だけだったのである。

②においては、研究対象クラブとなったエスパルスの分析を行った。そこでは、07シーズンにおけるエスパルスの満員度が飛躍的増加を遂げたということと、そのエスパルス経営陣が「入場料収入増加」のために「超満員戦略」と「地域密着」の狙いを持って「全ホームゲームの日本平スタジアム（以下、日本平）開催」と「地元サポーターの組織化」という施策を実行させたということが明らかになった。

ここでは、エスパルスを誕生させたサッカー王国清水の概略から、エスパルスの歴史を確認し、さらにはＪ開幕後のエスパルスの実績を、第4章3節において「入場者数」「満員度（いわゆるスタジアム占拠率）」「開催スタジアム」「チーム成績」「経営的データ」から時系列に沿って確認した。さらにそこで満員度上昇を遂げた07シーズンを、エスパルス

経営陣の戦略、施策の面から第5章で検証したのである。

③については、2つの観点から検証していった。まず第6章で、②で確認した戦略、施策がどのように満員度上昇に結びついたのかということを検証した。そこには「勝利」の好影響もあったが、「地域密着の徹底」と「全試合日本平開催」という施策が作用し合うことで、「真の地域密着」と地元サポーターが感じた効果は絶大だったのである。まさに「サポーター」と「フロント」に信頼関係が生まれたということになり、そこに超満員作戦が作用することで2度の「SOLD OUT」を作り出し、日本平の聖地化が進行していったと考えられるのである。

さらに考察を進め、第7章では07シーズンと過去のシーズンとを比較することで、「満員」「地域密着」「開催スタジアム」という3要素を好循環させる

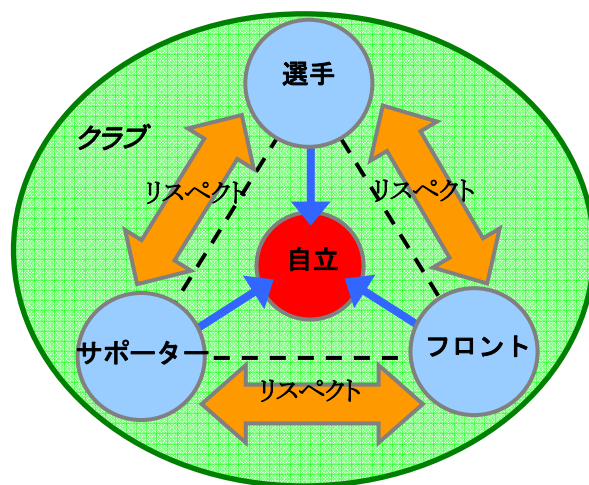


図 理想のクラブ像

ことで「ホームスタジアムの聖地化」を達成できることを検証した。まさに07シーズンのエスパルスでは、この三位一体の聖地化戦略が満員度上昇に結びついたことがわかったのである。

③の2つ目の検証では、そこまで導き出したエスパルス成功の戦略、施策が、他のＪクラブにとっての示唆となりうるかを考察した。まずは各Ｊ1クラブの満員度の状況を確認したのだが、07シーズン平均で満員度90%以上となったのはアルビレックス新潟のみで、多くのＪクラブに「ホームスタジアムの聖地化」が必要であることが確認できた。そこ

から、開催スタジアムを中心にさまざまな考察を進めていったが、そこで導かれたものは、地元スタジアム1箇所のみでの開催に加え、地域密着や満員の重要性を理解した施策を実施していくということが、「常時満員」を実現する真の「ホームスタジアムの聖地化」につながるということであったのだ。

このように進めた本研究であるが、その中で、「選手」「サポーター」「フロント」というクラブを構成する三者が、感謝、信頼、リスペクトで相互につながることで、図で示されるような理想のクラブが出来上がるのではないかという最終的な結論に至ることができた。まさにこれは「選手」「サポーター」「フ

ロント」のトリプルミッションモデルとも言え、相互のリスペクトがトリプルミッションの好循環を呼び、クラブの基盤を拡大させ、自立したクラブへの成長を促していくと考えるのである。

本研究で追求してきた「満員」さらには「常時満員」のスタジアムで J リーグが開催されるようになるためには、J リーグ、J クラブが、そしてサッカーが本当に文化として地域に定着していかなければならない。そのためにも、「選手」「サポーター」「フロント」の三者が相互にリスペクトし合うクラブ像を追求していくことが重要なのである。